

福井県における公共工事 イメージアップへの取り組み

福井県土木部土木管理課技術管理室

企画主査 下中 栄治
しもなか えいじ

1. 概 要

福井県では、工事現場周辺の環境を整備し、そこで働く関係者の意識を高め、建設事業に対する社会の理解と協力を得ながら良質な社会資本整備を図ることを目的として、平成4年度からイメージアップモデル工事を選定し、工事現場におけるイメージアップの向上に取り組んでいます。

選定にあたっては、PR 効果の高い個所における土木工事で、次の①～③のいずれかの項目に該当する工事から選定しています。

- ① 福井県を代表するプロジェクトに係わる工事
- ② 周辺環境との調和に積極的に配慮している工事
- ③ 建設現場における安全確保・事故防止に積極的に配慮している工事

制度創設時の平成4年度当初は、地域住民への工事現場に対する3K（きつい、汚い、危険）等のマイナスイメージを少しでも良くしたいという考えが強く、作業環境の改善、週休2日制の導入等を積極的に取り組んでいました。

また、平成12年度には、福井県も環境マネジメントシステムの運用を開始し、イメージアップモデル工事の選定基準にも、積極的な周辺環境への

配慮およびPRの実施内容が盛り込まれました。

具体的な取り組み内容としては、以下のとおりです。

(1) 工事内容の紹介と情報公開

- ・パネル展示、展示室の設置、パンフレットの作成、地元説明会等におけるPR、見学施設の整備など

(2) 地域住民との交流

- ・挨拶の励行や意見箱の設置、工事現場周辺の清掃活動、現場見学会の実施、地元イベントへの参加など

(3) 作業環境の改善

- ・トイレやシャワー施設完備の現場事務所、仮設施設の環境配慮、夜間照明やフラワーポットの設置等の安全・環境への配慮、現場内の清掃美化など

(4) 週休2日制の導入

平成18年度は、継続工事も含め15件を選定し、うち13件が実施されました（残り2件は繰越のため、次年度に報告）表-1参照。

以下、主な取り組み事例についてご紹介します。

表－1 平成18年度に実施したイメージアップモデル工事一覧表

番号	事業名 工事名	路線名 河川名	地係	主な内容
1	地方道路交付金工事（交通安全）および福井駅前地下駐車場（仮称）整備	主要地方道 福井停車場線	福井市 大手3丁目～中央1丁目	歩道部プランター・木製仮設柵・パンフレット作成・進捗状況看板
2	総合流域防災（真名川水辺の楽校）	一級河川 真名川	大野市南新在家～土布子	パンフレットを作成し、事業計画の基本目標の再認識、施設が有効かつ持続的に利用されるためのPR
3	総合流域防災	一級河川 大蓮寺川	勝山市昭和町1丁目	工事内容 PR 看板の設置、仮設施設の改善（周辺に配慮したバリケード、仮設トイレ、休憩施設等）、工事予定・進捗状況説明資料の配布等
4	地方道路交付金工事（踏切除却）	主要地方道 鯖江美山線	鯖江市 長泉寺町～上河端町	工事現場周辺の清掃、スリットを設けて作業状況が確認できる仮囲いフェンスの設置、フェンスには鯖江市のPR写真パネルを張り合わせる
5	基幹河川改修	一級河川 天王川	丹生郡越前町市	現場見学会の実施、説明資料の作成、PR 看板の設置、見学場所の設置、環境景観に配慮した仮設防護柵の設置
6	通常砂防	砂防河川 神宮川	越前市大滝町	工事 PR 資料の作成、ホームページに掲載、地元役員会で工事状況を説明、地元住民への挨拶励行、意見箱の設置、仮設トイレの設置、週休2日
7	地方道路交付金工事（道路改良）遊子トンネル（仮称）	一般県道 常神三方線	三方上中郡若狭町 遊子～塩坂越	完成予想図の看板設置、パンフレットの作成、工事現場周辺の清掃、労働宿舍および監督員詰所の充実、工事現場内整頓および美化
8	道路改良工事（地域連携推進（山村代行））	一級町道10号線	三方上中郡若狭町新道	現場見学会の実施、説明資料の作成
9	河川激甚災害対策特別緊急事業	一級河川 足羽川	福井市 大瀬町～勝見3丁目	パネル展示、現場見学会の実施、見学路設置、地元清掃活動への参加、地元地区イベント（まつり）への参加、工事工程表の地元配布、トイレ完備
10	浄土寺川ダム	浄土寺川ダム	勝山市170字奥山	PR 看板設置、見学スペース設置
11	港湾機能施設整備	敦賀港	敦賀市鞠山	イベント時に、水没するコンクリート構造物をキャンバスにした作品づくりをしてもらい地域住民との交流を図る
12	総合流域防災（H17繰越）（真名川水辺の楽校）	一級河川 真名川	大野市南新在家～土布子	ホームページにより計画内容・進捗状況・イベント案内等の情報を発信する。
13	道路改良工事（H17繰越）（地域連携推進（地方道））	一般県道 小浜インター線	小浜市和久利	パネル展示・地元説明会・工事進捗状況を随時説明

2. 取り組み事例の紹介

総合流域防災工事（水辺の楽校） 一級河川真名川 大野市南新在家地係 工事内容：

ふるさとの川・真名川の魅力ある水辺環境の復元を目的として、民間の管理運営団体（ビオフィレンズ）、大野市、福井県が一体となって取り組んでいます。県の主な役割は、河川の浚渫や高木の伐採等による治水機能の維持管理を実施していま

す。

取り組み内容：

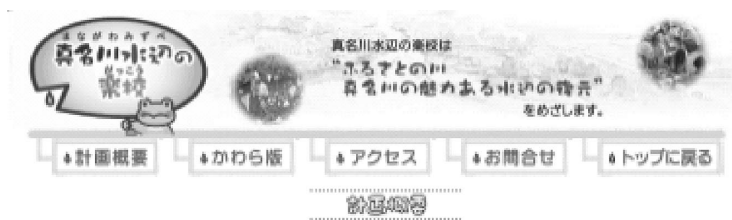
ビオフィレンズが主催するイベントと連携して工事内容を紹介することで、大きなイメージアップ効果を図ります。

18年度は、ホームページによる情報発信と、パンフレットを作成しました。

① ホームページの作成（写真－1）

（<http://info.pref.fukui.jp/kasen/managawa/index.html>）

基本計画の内容や施設整備状況、モニタリング調査の報告、イベント活動案内等の情報を提供することにより、川に対する親しみや興味を喚起



真名川水辺の楽校とは

国土交通省では、水辺での活動を安全かつ充実したものとするために必要な整備を行う「水辺の楽校プロジェクト」を平成8年度より推進しています。大野市では真名川下流域で、「あつ嵐らんど」や「大野市下水処理センター」など「水」に関連する公共施設の整備を進めており、これらの施設を取り巻く河川流域一帯は、野鳥をはじめ、植生、魚類、昆虫などの豊かな生態系を有していることから、周辺の水辺環境の整備などについて国土交通省へ申請を行い、平成13年1月に「水辺の楽校プロジェクト」として登録を受けました。

真名川水辺の楽校の整備概要

基本理念を定め、それに基づく基本的考え方、そのための施設整備を考えました。

真名川水辺の楽校は「ふるさとの川・真名川の魅力ある水辺の復元」をめざします。

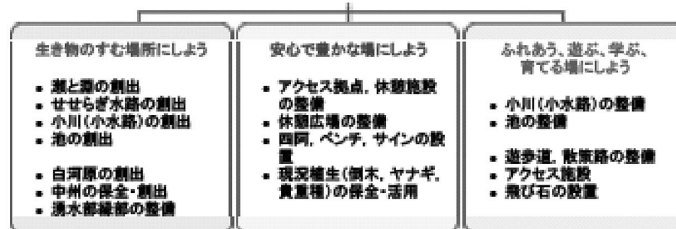


写真-1 水辺の楽校ホームページ



写真-2 水辺の楽校パンフレット

し、新たな環境感を育むことに努めました。

② パンフレットの作成（写真－２）

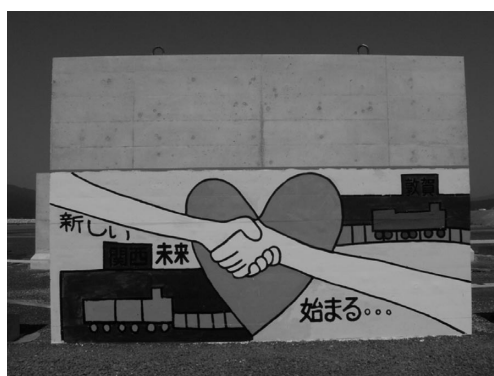
事業の目的、整備状況、利用ガイド（河原・遊歩道・池など各施設ごとに観察方法および遊び方をまとめ、そこで見られる植物や生物を紹介しています）を作成し、現場見学会や毎年行うイベント（写真－３）で配布を予定しています。



写真－３ H18夏のイベント（川ガキ養成塾）



写真－４ 壁画作成



写真－５ 出来上がった作品の一つ

港湾機能施設整備工事

敦賀港（鞠山南地区） 敦賀市鞠山地係

工事内容：

大型船への対応および埠頭用地不足の解消のため、施設改修や埠頭の造成を実施しています。

取り組み内容：

地元小学生に、先行して製作したL型ブロックの前面に壁画を作成していただき、その壁画の鑑賞会と造成現場の見学会を実施しました。

敦賀市のJR 直流化イベントに合わせて実施することで、より多くの方に参加いただきました。

- 1) 壁画作成：敦賀北小学校（235人）が参加し、2日間にわたって作成（写真－４，５）
- 2) 親子見学会：壁画を作成した生徒さん親子（77人）を対象とした壁画鑑賞、埋立体験、建設機械試乗体験を実施（写真－６）
- 3) パネル展示：壁画作成風景や埋立工事の進捗状況等をパネルにして展示（写真－７）
- 4) イベント報告書作成：工事内容や壁画作成風



写真－６ 親子で壁画鑑賞



写真－７ 工事状況等パネル展示

景、水中に設置されたL型ブロック等を報告書にとりまとめ、敦賀北小学校に提供

浄土寺川ダム建設事業

一級河川浄土寺川 勝山市170字奥山地係

工事内容：

治水安全度の向上，水道用水の確保等を目的としたダムの建設

取り組み内容：

迫力あるダム構造物の魅力を，身近に体験できるよう現場見学会を積極的に行い事業のPRを行いました。

- ① 現場見学会の実施（15回，約480人参加）
 - ・地元住民をはじめ，各方面の方々が参加（写真－8）
 - ・コンクリートダムに使用する骨材に願いごとを書いていただき，ダムに対する親しみを持っていただきました（写真－9）。
- ② PR 看板の設置
 - ・進捗状況がわかる看板の設置



写真－8 地元住民を招いてのダム現場見学会



写真－9 ダムに使用する骨材に願いを記す

3. まとめ

以上のとおり，最近のイメージアップモデル工事は，作業環境の改善だけでなく，地域住民との交流，工事内容の紹介等により，住民等の工事に対する理解と親しみにつながるような取り組みが主体となっています。

要因としては，①社会全体の環境に対する意識の向上により，積極的に作業環境の改善に努める建設業者が増加したこと，②インターネットや電子機器の発達により容易に情報発信が可能となったこと，③事業の必要性を含めた積極的な情報公開等が考えられます。

県としても，昨年度，土木部が所管する工事において現場見学会を積極的に開催し，その結果，約3,000人の参加を得ることができました。

公共工事に対する理解を深めるためには，受発注者が一体となった取り組みが重要であり，今後ともイメージアップモデル工事の取り組みを強化することにより，社会資本整備の重要性和必要性をPRしていきたいと考えています。